



# 鈴木淳の略歴

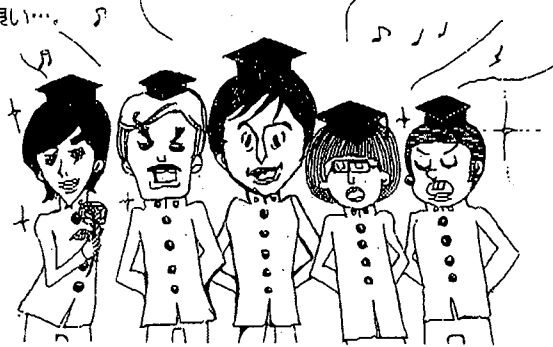
山口県防府市で防府天満宮宮司の次男として生まれる。家の中にあつた楽器は天満宮お下がり雅楽譜古い“笙”と太鼓だけ。



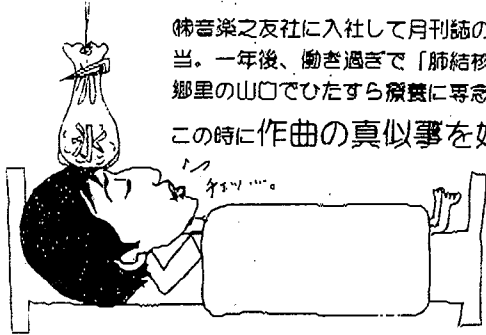
防府高校では音楽部で、コーラスの指揮者。この頃から校舎のピアノで先生に隠れて歌謡曲を弾いては、音楽の先生に見つけられて「おい、鈴木！ どうせ弾くのならクラシックを弾かんかい！」と叱られていた。

早稲田大学の教育学部国語国文学科に入学したが、教室で勉強するよりグリーンクラブの部室で男声合唱の練習をした時間の方が長かった。その甲斐あって(?) 4年生でバリトンのパートリーダーとなる。

『作曲家 鈴木淳』の原点は早大グリーンクラブにあるといつても良い...



俳音楽之友社に入社して月刊誌の編集を担当。一年後、働き過ぎで「肺結核」を発病。郷里の山口でひたすら療養に専念。この時に作曲の真似事を始めた。



退院後、三田尻女子高校の国語の教師になるが、卒業生に訊ねてみると「え〜っ！国語の先生だったの!? 音楽の先生かと思ってたワ」とのこと。...何を教えていたのだろう??

どうしても作曲家への夢があきらめきれず教師を辞め、音楽之友社に再入社。広告取りの営業を担当するが、あまり成績が上らず編集部に戻帰。のち、月刊誌「ポップス」の編集長となる。

昭和38年(1963)同社在職中に作曲した「恋なんてしたくない」(西田佐知子・唄)がポリドールレコードから発売される。以後、何作かレコードが発売されるが、全然売れず...

この頃、知人に安藤昇氏を紹介され、同氏主演の松竹映画「逃亡と掟」の映画音楽を担当。その後、音楽之友社に在職のまま、松竹系独立映画の映画音楽を担当。



「これでようやく音楽で食べていけるぞ〜！」

...と、思ったものの。

音楽之友社を退職するが作曲のみでは生活出来ず、ラジオ関東(現・RFラジオ日本)でクラシック音楽番組の台本を書いたり、選曲のアルバイトなどで、なんとか食いつなぐ。

最初のレコード発売から4年後の、昭和42年(1967)「小指の想い出」(伊東ゆかり・唄)が爆発的に大ヒット！初めて作曲家として認められる。

以後、作曲家一筋の生活となる。

以下「作品年表」のとおり。現在に至る。

